

【実践報告】

貧困問題を前に自分たちでできることは

ボランティアを通じた学びを地域で共有する

白村 直也¹⁾

¹⁾ 岐阜大学教育推進・学生支援機構

要旨

2019年度、岐阜大学のボランティア団体・学生ボラネットは、世界の貧困問題を前にフェアトレードに着目し、自分たちに何か出来ることはないかと取り組んできた。フェアトレードに関するボランティア活動に従事し、外部講師を招待して学びを深めることで問題の深刻さに触れてきた。その学びを地域の小学生に伝えようとイベントの開催を執り行った。また、自分たちの取り組みを「輝け！キャリアコン 2019☆岐大」にて発表した。本報告はその実践報告である。

キーワード：ボランティア，自主企画，フェアトレード，イベント企画，社会人基礎力

1. 岐阜大学学生ボラネットとは

岐阜大学は、社会で生涯にわたって高度な専門職業人として活躍するため、学生に身につけてほしい力「基盤的能力」として、「考える力」「伝える力」「進める力」を掲げている。そんな中、学生ボラネットは、学生自らが企画したボランティア活動を通じた「基盤的能力」を養うものであり、その成果をもって企業や自治体を含む地域社会が抱えるニーズを充足し、学生らのキャリア形成(社会的・職業的な自立)を促すものとして位置づけられている。

学生のボランティア活動といえば、外部から寄せられるボランティア募集を手伝う、または学生は自己の興味・関心に従い応募、そして参加する手順を踏む。一方、学生ボラネット(図1)のボランティア活動は、各学生委員が自己の興味・関心を持ち寄り、地域のニーズに鑑み立案、企画、そして実行という手順を踏むことで「基盤的能力」の育成を加速させる。ここに通常のボランティアと大きな違いがある。活動は以下の4点に従い実施される。

① 学生ボラネットに所属する学生が、自己の興味・関心を持ち寄り議論を重ね、地域のニーズをもとに取り組むべき問題を抽出し、ボランティア活動を企画する。その実施のために資料調査やフィールドワークを実施し、学生ボラネット内で話し合う。「考える力」②

貧困問題を前に自分たちでできることは

関係団体の協力を計画的に仰ぎ、取り組む問題の深い理解に努める。「進める力」③ 学生ボラネットの活動計画を関係者にプレゼンなどフィードバックを行い（「伝える力」），対話と議論を通じてより精緻なものとしていく。④ 以上を通じて学生の「基盤的能力」がどのように、どれほど育成されたのかポートフォリオを使用し振り返る。



図1. 学生ボラネットパンフレット

2. 2019年の活動内容

2019年4月からメンバーが集まり始め、本格的に活動を始めたのは5月だった。当初メンバーは4名。毎週水曜日15時から大学サポーターズルームにて、およそ2時間程度ミーティングを開催した。自分たちが長期的にどのようなテーマで活動をしていくのかを話し



図2. 勉強会のポスター

合う。学生それぞれからいくつかアイデアが出され、話し合う内に内容が絞られていった。テーマは「フェアトレード」に決定し、小学生を対象に何かイベントを開催することができないか、と話し合った。しかし私たち自身もフェアトレードについてあまりよく知らなかったことから、勉強会を開催しようということになった。そこで、岐阜市でフェアトレードに関するお店を運営されている高橋純子さん（後述）を大学にお招きし、2019年5月22日（水）に大学でご講演いただいた（図2）。その後、勉強会での振り返りを含め、具体的などのようなイベントを開催するかを話し合った。イベントの内容としては、①フェアトレードに関するミニレクチャー、②クイズ大会、そして、③インドで作られた布（図3）を使って親子で一緒に縫製&カバン作りの3点に決まった。



図3. フェアトレード商品としてフラマンで販売されているインド製の布

〇イベント開催に向けて

日時、場所、ポスター作成（広報）について話し合った。日時は2019年8月17日（土）に、10時からと14時からの2ステージ行うこととし、場所は岐阜市中心部に位置する旧徹明小学校（会場費は無料）に決定。イベントへの参加方法は、ポスター（図4）に記載したメールアドレスにメールで申し込みをしてもらう、または電話で参加予約を受け付けと



図4. イベントポスター

なった。保護者同伴、参加費は無料での開催にした。

○告知と集客

イベント集客については、次の3点にも学生主体で取り組んだ。

○岐阜市内の小学校 20 校、計 600 枚にチラシを郵送。

○岐阜市教育委員会を通じて市内の全放課後児童クラブに周知。

○8月14日付、岐阜新聞朝刊 11面に開催のお知らせ掲載(図5)。

○イベント当日

会場の設営(図6)を行い、スライド発表の練習を行うも、来場者来ず。そこで、今回のイベント内容について振り返った。反省点としては、次のような点が挙げられた。

○イベントの内容について…順序よく話し合いを進めることができなかった。日程と場所は早い段階で決定する。

○イベント内容の伝え方…対象に興味・関心を持ってもらえるような構成を意識する。

○メンバー内の確認不足…役割分担と報告の徹底。



図6. 当日の会場設営

ある学生は今回の経験を次のように語った。「ボラネットでは自分たちがやりたいボランティアを自分たちで考えて実際に行うということだったので、『フェアトレードを知ってもらう』を目標に活動を行ってきました。そのためには、まずフェアトレードを自分たちが学ぶことが必要です。そこで、岐阜市の長良でフェアトレードのお店を営んでいる高橋さんからフェアトレードについての講義を受け、フェアトレードの現状と問題点を学びました。実際に話を聞く機会が今までなかったので、このような機会が身近にあれば、という思いで

イベントを行うことを決定し、イベント内容についての話し合いを始めました。イベントの対象者を小学生の高学年に決定しましたが、なかなか準備が進まず時間がかかってしまったため、最後までぎりぎりまでの準備作業となりましたが、そんな中でもメンバー全員と協力しながら準備を進め、イベント当日を迎えました。結果的にイベント参加者はゼロでしたが、この原因をみんなで話し合い、問題点を挙げるのがとても大事な経験になりました。私はこの失敗を通じて、さまざまなことを学ぶことができたと思っています。」。

3. 「輝け！キャリアコン 2019☆岐大」に出場！

学生に身につけてほしい力として経済産業省は、2006年に「社会人基礎力」を提唱した。これは「前に踏み出す力」、「考え抜く力」、そして「チームで働く力」で構成されている。「人生100年時代」を見据えて今後この力は社会で必要とされることもあり、学生のキャリア教育を考える上での重要なキーワードとして、教育業界はもとより社会からも非常に注目されている。このイベント「輝け！キャリアコン 2019☆岐大」は、今年度岐阜大学教育推進・学生支援機構キャリア支援部門が主催となり、ボランティアをはじめとする社会貢献活動等を通じて岐阜県で学ぶ学生がどれだけ「社会人基礎力」を身につけたかを発表する「場」を作ろうということで、2019年9月8日（日）13：00～17：00、岐阜大学サテライトキャンパスにて開催された¹⁾。

<p>◆発表要項◆</p> <p>① 指導員（いない場合は学生リーダー）の発表（1名）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 取り組みの位置づけと達成目標（育成したい人物像） 2. 達成に向けて指導員としてどのようなアクションをとったか。 3. 学生達をどのように評価しているか。その評価となる根拠は何か。 4. 今後、どういったことを改善していきたいか。 <p>② 学生の発表（最大3名）：取り組んだ活動を説明。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. テーマ設定 2. 目標設定 3. 目標達成に向けた役割分担 4. 活動 5. 課題 6. 課題解決 7. 結果・評価
--

図7. 発表要項

参加校には私たち岐阜大学学生ボラネットグループの他に、岐阜県立看護大学、岐阜聖徳学園大学、大原簿記医療観光専門学校・岐阜校、日本総合ビジネス専門学校・大垣、アンフアッションカレッジからの出場があった。出場グループは上図7の発表要項にそって発表を行い、県内の複数の企業代表者から評価項目に従った評価を受けた。

貧困問題を前に自分たちでできることは

ここでは私たち学生ボラネットグループの発表で使用したスライドの中から抜粋して掲載したい(図8から図15)。



図 8. スライド 1 枚目

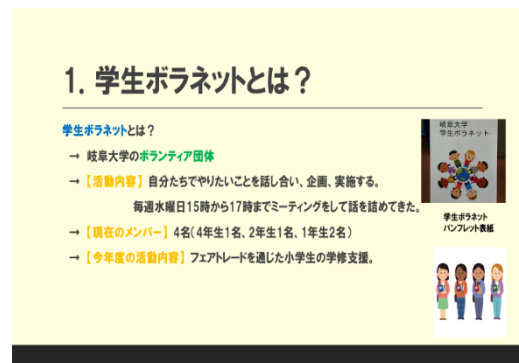


図 9. スライド 2 枚目

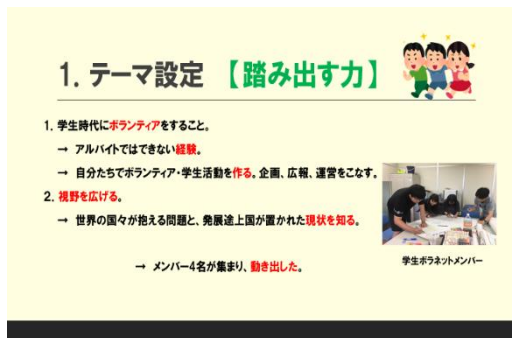


図 10. スライド 6 枚目

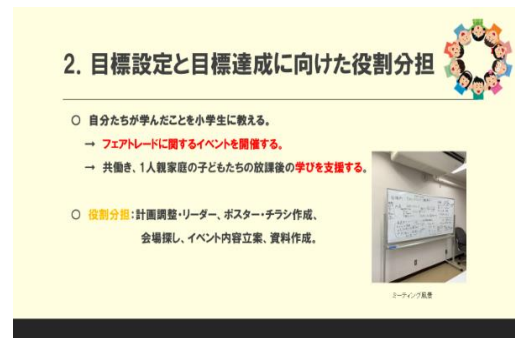


図 11. スライド 8 枚目

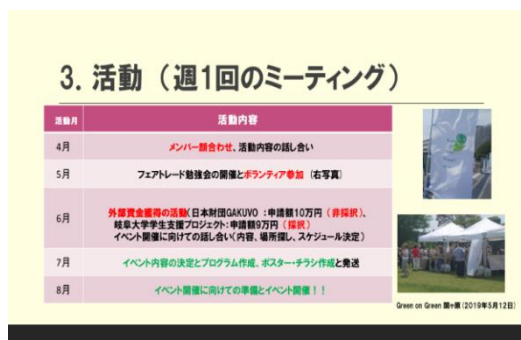


図 12. スライド 9 枚目



図 13. スライド 10 枚目



図 14. スライド 13 枚目

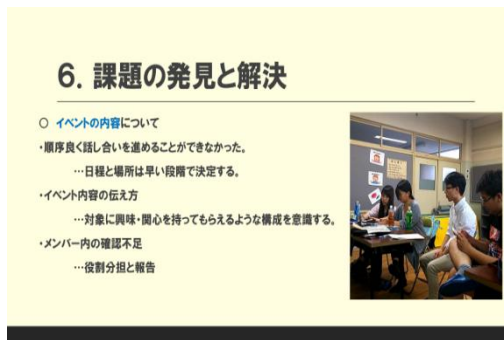


図 15. スライド 15 枚目

全グループの発表後に行われた授賞式では、学生ボラネットグループの受賞は叶わなかったものの、多くの人前でプレゼンテーションはもとより、数多く行ってきた皆でのディスカッションや反省など、貴重な経験を得たと思う。そして活動を通じて得たフェアトレード活動や、フェアトレードを通じて見る世界が抱える問題に関する知見は、学生一人一人にとってかけがえのない財産になったに違いない。

今回学生にフェアトレードに関するレクチャーをしてくださった、フェアトレード雑貨店 flammant 店主、高橋純子さんは、「遠い国の他人事ではなく、自分の日常にも、普段のお買い物にも大きく関わっていることを意識していただけたらと思います。また多くの方がフェアトレードに興味を持っていただければと思っています。フェアトレードは、貧困だけでなく、人や環境を守り、人間の尊厳、国や地域また個々の個性（アイデンティティ）を大切に考えています。世界中で、人が人らしく、自然が必要以上に侵されることなく守られ、健全で持続可能な暮らしができることが理想です。フェアトレード商品を購入することだけでなく、私たちにできることはたくさんあります。将来的にさらに必要となる取り組みですので、ぜひ積極的に関わっていただければと思います」と学生にエールを送っていただいたことを最後に付記しておきたい。

4. おわりに

自分たちで何かを企画し、実行するのは、簡単そうにみえて実は非常に難しいことだ。だが、学生ボラネットを管理運営する立場からみて、学生メンバーが試行錯誤し、ときにぶつかりながらも前に進もうとする姿勢は非常に頼もしく思えた。

今回、私たちが取り組んだテーマは、フェアトレードだった。大学とアルバイト、そしてサークルで忙しい学生にとっては、海外に目を向け、普段触れることがあまりない社会問題—貧困に注意を向けるのは非常に良いことだと思った。自分たちが一からフェアトレードに

貧困問題を前に自分たちでできることは

ついて学び、その成果をかみ砕いて小学生に分かりやすく教えようというのも、画期的な試みだと思う。だが、こうしたイベントを開催したことがないことに加え、開催時期が小学校の夏休みの時期に重なったこともあり、集客がうまくいかなかった。夏休みは夏休みで小学生も忙しいようだ。

世界地図を眺めてみる。世界には非常に多くの国があり、多くの人が暮らしている。南北問題に代表されるように、私たちが普段の暮らしの中で感じることはなくとも、数え切れないほど多くの問題で世界はあふれている。そうした問題に少しでも関心を持ってもらいたかった。イベント開催をめぐるには残念な結果になったが、その経験から各メンバーが何かを感じ取ってくれたら、と思う。何よりフェアトレードの勉強会や、自分たちで情報、資料収集して知識を深めようと行動したことは誇りに思う。

近い将来、大学を卒業し社会に出ていく学生たちが、日本はもとより、世界の中での自分の立ち位置を意識しながら自らの進むべき道を切り拓いていってくれることを願ってやまない。

【注】

1. 「輝け！キャリアコン 2019☆岐大」開催に至った経緯や当日の様態などは、本年報別稿「地域に根ざした課外活動を通じたキャリア形成と学び合い 教育と企業が向き合い、社会人基礎力を培う」(白村直也、横田康成、吉田敏、正村隆弘著)を参照されたい。

【参考文献】

1. 経済産業省ホームページ [<https://www.meti.go.jp/policy/kisoryoku/index.html>] (2020年4月9日閲覧確認)。